

芸術文化

1 芸術・文化振興

○主な事業

① 第40回大分市民音楽祭

平素から音楽活動を行っている団体に発表と鑑賞の機会を提供し潤いと安らぎのある市民生活を実現するために大分市民音楽祭を開催する。

実施日 平成27年2月22日(日)

場所 ホルトホール大分 大ホール

昨年度実績

実施日 平成26年2月23日(日)

場所 ホルトホール大分 大ホール

出演団体数 17団体

出演者数 246人

入場者数 1,025人



大分市民音楽祭

② 第21回大分市芸能まわり舞台

芸能活動に取り組む市民に、発表と鑑賞の機会を提供することにより、伝統文化を継承し多様で豊かな文化を創造する市民の育成をめざすとともに参加団体相互の情報交換と親睦を図る。

実施日 平成27年2月8日(日)

場所 ホルトホール大分 大ホール

昨年度実績

実施日 平成26年2月2日(日)

場所 ホルトホール大分 大ホール

出演団体数 10団体・子ども舞台

入場者数 1,570人



芸能まわり舞台

③ 第49回大分市美術展

美術の各分野における市民の創作活動を促進し、発表と鑑賞の機会を提供することによって、多様で豊かな文化を創造する市民の育成をめざす。

会期 平成27年3月6日(金)～3月29日(日)

場所 大分市美術館

昨年度(25年度)実績

会期 平成26年2月28日(金)～3月23日(日)

場所 大分市美術館

出品数 469点



市美展

2 文化財

(1) 平成25年度文化財主要事業

文化財は、郷土の先人たちが営々として築き上げ、また守り育ててきた貴重な文化遺産である。私たちは身近な郷土の文化財をとおして、先人たちのすぐれた生きざまを学びとり、あるいは環境のたくみな利用法に接して、私たちの生活文化をより豊かなものにすることができる。その保護・保存と活用は、先人への敬愛の念と自然への畏敬の態度を養う原点でもあり、そしてこれの子孫への継承は、私たちの負うべき責務の一つでもある。

本市では、文化財保護法の主旨にのっとり、文化財の保護・保存と活用を図るために調査・保存・指定・管理・公開等の事業を推進しながら「文化財を活かした」都市づくりを展開している。

① 埋蔵文化財発掘調査

駅周辺総合整備事業、区画整理事業、宅地造成事業など公共・民間の各種開発等にもなう事前審査や発掘調査を実施。遺跡の確認、記録保存、現状保存等の措置を講じている。

埋蔵文化財にかかる、平成25年度の調査成果は次表のとおりである。

	遺跡名・回数	時代
1	中世大友府内町跡101次	戦国
2	中世大友府内町跡102次	戦国
3	鶴崎御茶屋跡 3 次	近世
4	猪野遺跡 6 次	弥生
5	中世大友府内町跡103次	戦国
6	大友氏館跡29次	戦国
7	米良草遺跡 1 次	奈良
8	横尾遺跡150次	中世
9	横尾遺跡151次	近世
10	羽田遺跡12次	弥生
11	横尾遺跡152次	不明
12	古国府遺跡群19次	弥生・古墳
13	上野遺跡群17次	奈良・平安
14	中世大友府内町跡104次	戦国
15	柞原八幡宮遺跡群 1 次	中世・近世
16	米竹遺跡 9 次	弥生
17	米竹遺跡10次	弥生
18	府内城・城下町24次	近世
19	米竹遺跡11次	弥生
20	城原・里遺跡15次	弥生
21	城原・里遺跡16次	古墳
22	大友氏館跡30次	戦国

② 文化財保存整備事業

ア 文化財保存修理事業

(ア) 国指定史跡「大分元町石仏」保存整備事業
事業者 大分市

大分元町石仏環境調査及び保存整備実施設計の策定。石仏本体の脱塩処理を実施した。

(イ) 国指定重要文化財柞原八幡宮

防災設備設置事業

事業者 宗教法人 柞原八幡宮

自動火災報知機、放水銃等防災設備設置した。

(ウ) 国指定重要文化財後藤家住宅管理事業

事業者 後藤タケコ

平成25年3月上旬の強風によって、屋根棟部分の竹および杉皮が脱落。平成26年3月に棟巻工事（鉾竹・杉皮交換）を実施。

(エ) 県指定有形文化財 教尊寺「経蔵・輪蔵」

保存修理事業

事業者 宗教法人 教尊寺

5ヶ年事業の最終年度を迎え、防災設備設置等を実施。輪蔵の経櫃取付と彩色工事

(オ) 県指定有形文化財 早吸日女神社「総門」

保存修理事業

事業者 宗教法人 早吸日女神社

劣化塗装部分除去し塗装。

(カ) 県指定史跡府内城跡宗門櫓保存整備事業

事業者 大分市

北西隅瓦の崩落のため平成24年度応急措置を行っていた府内城宗門櫓について、「現況調査」を行い、崩落部分の部分修理を内容とする「保存改修設計」を行った。

(キ) 市指定史跡「大友頼泰墓」環境整備

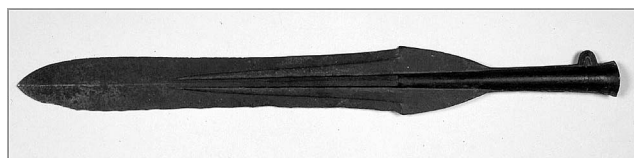
事業者 大分市

見学者のため、参道整備・周囲環境整備・駐車場整備を実施した。

イ 文化財の新規指定（平成25年度）

市指定有形文化財

「伝名辺山谷出土銅矛」



③ 文化財愛護活動

郷土の文化財に愛着をもち、研さんを深めながら保護、継承等に努力し、地域づくりへの貢献を目的としている以下の各団体に指導・助成を行っている。

団		体		名	
愛護少年団	丑	殿	愛護団体	大在地区文化財同好会	
	常	行		坂ノ市地区郷土史愛好会	
	国	分		大南地区文化財同好会	
	宮	苑		鶴崎地区文化財研究会	
	森	岡			
本	神	崎			

(2) 各種委員会の開催

① 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会条例により設置。文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査、審議することを目的とする。年2回開催。

平成25年度は、文化財行政の報告および計画、市指定文化財の指定基準および指定について審議した。

② 高崎山管理委員会

国指定天然記念物「高崎山の猿生息地」の適正管理を行い、高崎山全体により適正な保存管理運営を行なうことを目的とする。

平成25年度は、高崎山ニホンザル個体数適正化事業について協議した。

③ おおいた地域伝統文化応援事業選考委員会

大分市内に守り伝えられてきた伝統文化の継承・再興及び発展を通じ、世代間の交流の増進や地域の活性化を図ることを目的とする。

平成25年度は、5月17日（金）に選考委員会を開催、7団体に助成を行なった。

④ 大分元町石仏調査委員会

4回の調査委員会を開催し、環境調査の内容について協議を行った。

(3) 普及・愛護の啓発活動

① 大友氏遺跡情報発信事業

ア キリシタン・南蛮文化交流協定

「キリシタン・南蛮文化交流協定協議会」を立ち上げ、設立6市長合同記者発表を平成26年2月12日に実施。

イ 大分市・上智大学連携講座

平成24年度に上智大学において開講した公開講座を大分市でも実施した。

平成25年9月から12月の間に全8回開催。

参加者1178名

ウ 大分市誕生100年記念事業「南蛮文化国際フォーラム」の開催

大友宗麟公や豊後府内が海外からどのように評価されていたかという視点で、講演やパネルディスカッションを行った。

平成25年8月10日（土）開催1493人参加

エ 「大友宗麟」副読本活用

大友宗麟の副読本を市内の全小学校（60校）に配布。6年社会科で副読本を活用した授業を実施し、郷土大分の歴史に関する学習を行った。

オ 「大友氏遺跡フェスタ2013」

9月29日に大分銀行赤レンガ館、10月5・6日に大友氏遺跡と城址公園において開催。

カ 「宗麟公まつり」における「伝統芸能フェスティバル」の開催

11月9・10日、大分いこいの道広場において行われた「宗麟公まつり」において「伝統芸能フェスティバル」を開催。

キ 市民ボランティアの活動

おおいた応援隊「大友歴史保存会」が主体となって、前述の宗麟公まつりでは、「ムシカの郷の観月祭と大茶会」を行った。

ク 市民意見交換会

「知ろう！語ろう！大友氏歴史公園」

大友氏歴史公園の整備・活用にあたって、参加者と意見交換を行う。

平成26年1月18日に、ホルトホール大分において「市民意見交換会」を開催

ケ 戦国時代三都市講演会

大友氏に関係の深い博多・山口と府内・臼杵の共通点や相違点を検証。

平成26年2月8日と3月1日赤レンガ館において開催。

② 府内城下町散策ルートマップの製作

市民の意見を反映させた府内城下町散策のモデルルートの策定、マップの作成を行った。

発行日 平成26年2月21日

発行部数 5万部

③ 史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業

文化財保存活用センター施設展示室の設備を整え、大分市全域の文化財や史跡の案内板を製作し、5ヶ所の文化施設内に設置した。また、広報誌の発行と配布（20,000部）市内に残る貴重な史跡や遺跡を紹介するために、広報誌「文化財だより」を作成。

④ 文化財防火デーに係る防火訓練の実施

昭和24年1月26日に法隆寺金堂壁画が焼損したため、この日を文化財防火デーと定め、文化財を火災、地震その他の災害から守るため、文化財防火訓練を展開し、文化財愛護思想の高揚を図る。

平成25年度は、1月23日に県指定有形文化財「教尊寺」で、地元自治会の協力を得て、大分東消防署佐賀関分署と共同で通報訓練、初期消火訓練、放水訓練を行った。参加者47名



文化財防火訓練「教尊寺」

(4) 収蔵・公開施設

施設名	毛利空桑遺品館								
所在地	〒870-0101 大分市鶴崎381番地の1								
電話	097-521-4893								
休館日	毎週月曜日（月曜日が祝日の場合翌日） 但し毎月第1月曜日は開館し翌日休館 年末年始（12/28～1/4）								
概要	<p>鶴崎在住の肥後藩士。儒者、教育家として家塾知来館・郷校成美館などで子弟を教育し、また勤皇家としても活動した毛利空桑の偉業をしのぶため、彼の遺品を収蔵、展示したものである。居宅天勝堂と知来館に隣接する。昭和60年改築。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">平成25年度入館者数</td> </tr> <tr> <td>大人</td> <td>5,417人</td> </tr> <tr> <td>小人</td> <td>379人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,796人</td> </tr> </table>	平成25年度入館者数		大人	5,417人	小人	379人	合計	5,796人
平成25年度入館者数									
大人	5,417人								
小人	379人								
合計	5,796人								

施設名	池見家住宅								
所在地	〒870-0315 大分市大字佐野 佐野植物公園内								
電話	なし（問合せは文化財課へ）								
休館日	毎週月曜日（月曜日が祝日の場合翌日） 年末年始（12/28～1/3）								
概要	<p>江戸時代、原村・久土村を統轄する臼杵藩丹生原組の庄屋を勤めた池見家の邸宅で、市内では最古の民家として歴史的な価値を持つものであり、また、普通の民家とは違って庄屋住宅としての構造をよく伝えた建物で、建築史の上からも注目される。平成3年佐野植物公園内に移築復元。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">平成25年度入館者数</td> </tr> <tr> <td>大人</td> <td>4,568人</td> </tr> <tr> <td>小人</td> <td>2,095人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,663人</td> </tr> </table>	平成25年度入館者数		大人	4,568人	小人	2,095人	合計	6,663人
平成25年度入館者数									
大人	4,568人								
小人	2,095人								
合計	6,663人								

施設名	海部古墳資料館										
所在地	〒870-0303 大分市大字里646番地の1										
電話	097-524-2300	FAX	097-524-2301								
休館日	毎週月曜日（月曜日が祝日の場合翌日） 但し毎月第1月曜日は開館し翌日休館 年末年始（12/28～1/4）										
概要	<p>国指定史跡「亀塚古墳」のガイダンス施設として広く古墳文化を案内する施設。展示室には、実物資料や複製品のほか、大型ジオラマ、市内の古墳復元模型を展示し、楽しみながら学べる資料館です。平成12年4月開館。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">平成25年度入館者数</td> </tr> <tr> <td>団体</td> <td>4,161人</td> </tr> <tr> <td>個人</td> <td>12,694人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>16,855人</td> </tr> </table>			平成25年度入館者数		団体	4,161人	個人	12,694人	合計	16,855人
平成25年度入館者数											
団体	4,161人										
個人	12,694人										
合計	16,855人										

施設名	大友氏遺跡体験学習館										
所在地	〒870-0843 大分市大字大分4257番地の1										
電話	097-544-5011	FAX	097-544-5011								
休館日	毎週月曜日（月曜日が祝日の場合翌日） 但し毎月第1月曜日は開館し翌日休館 祝日の翌日（土・日曜日の場合開館） 年末年始（12/28～1/4）										
概要	<p>国指定史跡「大友氏遺跡」の内容と発掘調査への理解を深めてもらうために、設置した施設。調べ学習の資料や、体験学習のメニューを揃え、研修室では、40名が活動を行える。平成20年4月開館。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">平成25年度入館者数</td> </tr> <tr> <td>大人</td> <td>8,069人</td> </tr> <tr> <td>小人</td> <td>1,782人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9,851人</td> </tr> </table>			平成25年度入館者数		大人	8,069人	小人	1,782人	合計	9,851人
平成25年度入館者数											
大人	8,069人										
小人	1,782人										
合計	9,851人										

(5) 指定・選択文化財

平成25年4月1日現在

① 国指定

ア 重要文化財

名称または物件	所在地	所有者または 管理団体	指定年月日	摘 要	参 考
太 刀	八 幡	柞原八幡宮	昭25.8.29	銘 国宗 長さ 75.8cm	鎌倉時代
太 刀	”	”	”	銘 源国(以下一字並年号不明) 長さ 108cm	”
薙 刀 直 し 刀	”	”	”	銘 表「国重八幡大菩薩」裏「天満大自在天神」	鎌倉時代末期～南北朝時代
銅 造 仏 像	”	”	”	社伝 阿弥陀如来立像金剛仏 重さ11.25kg 像高30.3cm	白鳳時代
木造普賢延命菩薩坐像	”	大 山 寺	昭50.6.12	榧材 像高 87.7cm	平安時代
後 藤 家 住 宅	柞ヶ原	個人所有	昭50.6.23	18世紀中頃の庄屋の母屋 寄棟造り 茅葺	江戸時代
白壇塗浅葱系威腹巻 鬼・天袖・小具足付	八 幡	柞原八幡宮	昭55.6.6	胴高 32.3cm 草摺高 28.5cm 兜鉢高 18.0cm	室町時代末期
木造大日如来坐像	上野丘	金剛宝戒寺	平3.6.21	文保2(1318)康俊作 檜材寄木造 像高 303.8cm	鎌倉時代
柞原八幡宮文書	八 幡	柞原八幡宮	”	柞原宮領関係史料(213通) 元和7年	平安・鎌倉・南北朝・室町・江戸
帆足家伝来資料 田能村竹田関	美術館	大 分 市	平6.6.28	紙本墨画淡彩花卉図外25点	江戸時代
柞原八幡宮	八 幡	柞原八幡宮	平23.6.20	本殿・東宝殿・西宝殿・申殿・拜殿・楼門・東回廊・西回廊・ 西門・南大門の10棟	江戸～明治

イ 史跡

豊後国分寺跡	国 分	大 分 市	昭8.2.28	国分僧寺追加指定(昭58.9.8 昭61.5.28)	奈良時代
大分元町石仏	元 町	”	昭9.1.22	日羅または仁聞の作と伝えられる 保存修理 昭46,52,53,61年以降	平安時代
高瀬石仏	高 瀬	”	”	石窟を彫り込み奥壁に東を向いて彫られる	平安～鎌倉時代
千代丸古墳	宮 苑	”	昭9.5.1	装飾古墳 横穴式石室	古墳時代後期
築山古墳	本神崎	八幡神社	昭11.9.3	前方後円墳 箱式石棺	古墳時代中期
古宮古墳	三 芳	大 分 市	昭58.5.11	石棺式石室墳 九州では他に例なし	終末期古墳(7世紀)
亀塚古墳	里	”	平8.3.28	前方後円墳 全長約116m	古墳時代中期
大友氏館跡	顕 徳	”	平13.8.13	九州六国を支配した大友宗麟を全盛期とする戦国大名・大友氏の拠点方二町(200m四方)	戦国時代
横尾貝塚	横 尾	”	平21.2.12	縄文時代の集落の移り変わりが復元できる。縄文時代 からの地形と自然がよく残されている。	縄文時代

ウ 天然記念物

柞原八幡宮のクス	八 幡	柞原八幡宮	大11.3.8	自生のクス 樹高約30m 幹囲約18.5m	
高崎山のサル生息地	神 崎	大 分 市	昭28.11.14	都市近郊における日本猿の自然的集団	
オオサンショウウオ	神 崎	(株)マリーンス パーク	昭27.3.29	広島市安佐動物公園より譲渡	特別天然記念物

エ 無形民俗文化財(選択)

鶴崎踊	鶴 崎	鶴崎おどり会 鶴保	昭61.12.17	記録保存の措置を講ずべきものとして選択	
-----	-----	--------------	-----------	---------------------	--

オ 登録文化財

大分銀行赤レンガ館(旧二十三銀行本店・旧府内会館)	府 内 町	(株)大分銀行	平8.12.20	鉄筋コンクリート造2階建 スレート及び瓦棒葺	大正2年(1913)
太田缶詰工場主屋	白 木	個人所有	平11.6.7	木造2階建 寄棟造 洋風の玄関特徴 接客用座敷や和室の居住部分と工場事務室併設	明治39年(1908)
太田缶詰工場土蔵	”	”	平11.6.7	切妻造の2階建て 外壁漆喰仕上げ	”
太田缶詰工場石倉	”	”	平11.6.7	外壁周りを石造 軒周り漆喰仕上げ 正面左右に2つ出入り口があるのが特徴	大正期
荻本家住宅主屋	坂ノ市	個人所有	平17.7.12	木造平屋建一部二階建 瓦葺建築面積244㎡	江戸末期
帆足家分家住宅主屋「松石不老館」	中戸次	個人所有	平17.11.10	入母屋造、棧瓦葺、木造2階建 通り土間をもつ商家建築の形式	明治39年(1908)
帆足家分家住宅敷「松石不老館」新座敷	”	”	”	寄棟造、棧瓦葺、木造平屋建 南側に広縁をとり中庭を望む 門及び塀は棧瓦屋根	明治中期
帆足家分家住宅蔵「松石不老館」道具蔵	”	”	”	切妻造、棧瓦葺、土蔵造2階建 切石積みの上に建つ海風壁	”
帆足家分家住宅蔵「松石不老館」質蔵	”	”	”	切妻造、棧瓦葺、土蔵造2階建 切石積みの上に建つ海風壁 棧瓦屋根の板塀及び門	”
帆足家分家住宅「松石不老館」湯殿及び風呂	”	”	”	湯殿を南北棟、風呂を東西棟とし、両棟が接して建つ 寄棟及び入母屋の屋根、共に棧瓦葺	”
帆足家分家住宅「松石不老館」井戸上屋	”	”	”	切石積みの基壇の上に四方に柱を立て、切妻造、棧瓦葺 切石を長方形の井桁に組む	”

名称または物件	所在地	所有者または 管理団体	指定年月日	摘 要	参 考
帆「足家分家住宅蔵」 「松石不老館」穀物	〃	〃	〃	切妻造、棧瓦葺、土蔵造2階建 引戸口2箇所 全長に吹き放ちの下屋 切石積みの上に建つ	明治22年
帆「足家分家住宅蔵」 「松石不老館」味噌	〃	〃	〃	切妻造、棧瓦葺、木造平屋建 下屋北側2間半分を壁で囲む 切石積みの上に建つ	〃
帆「足家分家住宅蔵」 「松石不老館」裏二階	〃	〃	〃	寄棟 棧瓦葺木造2階建 裏木戸中央に1間幅の観音開きの木戸口	明治中期
帆「足家分家住宅蔵」 「松石不老館」住	〃	〃	〃	間口は2.7m、棟門の形式 棧瓦葺、木造両脇に塀を続け、門脇に潜戸を設ける	〃
帆「足家分家住宅蔵」 「松石不老館」住	〃	〃	〃	切石積みの上に建ち、腰を下見板張り、上部を真壁造、漆喰塗り2箇所格子窓、棧瓦葺屋根	〃
帆「足家本館」家住宅	中戸次	個人所有	平18.11.29	木造二階建 一部平屋 入母屋造 棧瓦葺 南側中央式台玄関を設け 西側に一段高い座敷	慶応元年(1865年)
帆「足家本館」家住宅	〃	〃	〃	土蔵造二階建 切妻造 棧瓦葺 一階2室二階1室外壁漆喰ぬり腰を海鼠壁	大正期
帆「足家本館」家住宅	〃	〃	〃	土蔵造二階建 切妻造 棧瓦葺 一階2室二階1室外壁漆喰ぬり腰を海鼠壁	大正5年頃
帆「足家本館」家住宅	〃	〃	〃	木造二階建 寄棟造棧瓦葺 南側に洋室 東側に店舗を付属 モルタル壁 石造風	大正5年(1916)
帆「足家本館」家住宅	〃	〃	〃	木造平屋建 寄棟造 棧瓦葺 南側に廊下 北側中央に八畳座敷 書院風のつくり	昭和12年(1937)
帆「足家本館」家住宅	〃	〃	〃	質蔵と洋館の間に建つ 二間幅の棟門 木造 切妻造 棧瓦葺 両脇に袖塀	江戸末期
帆「足家本館」家住宅	〃	〃	〃	主屋式台玄関の西側 間口一間 木造腕木門 切妻造 棧瓦葺 両脇に袖壁	江戸末期
帆「足家本館」家住宅	〃	〃	〃	主屋南側の庭の南側と西側を開き、質蔵北西隅から宝蔵南まで延びる。南東隅に腕木門	大正期
浄土寺本堂	王子西町	浄土寺	平20.10.23	木造平屋建 入母屋造 本瓦葺 大規模な七間堂	嘉永2(1849)
浄土寺庫裏	〃	〃	〃	木造2階建 寄棟造妻入棧瓦葺 床つきの座敷・奥座敷	江戸後期・末期改修
浄土寺玄関及び渡廊下	〃	〃	〃	木造平屋建 本堂と庫裏を繋ぐ 入母屋屋根の玄関	江戸末期
浄土寺大弁才天石宮	〃	〃	〃	石造 庫裏の西北 庭園内に建つ 一間社流造	明治44年(1911)
浄土寺一伯公廟	〃	〃	〃	木造平屋建 入母屋造妻入棧瓦葺 松平忠直の墓碑を安置する	江戸後期 大正14・昭和49移築
浄土寺表門	〃	〃	〃	木造 左右袖塀付 本堂正面に建つ四脚門	明治後期 昭和26改修49移築
浄土寺北門	〃	〃	〃	木造 瓦葺 柱上に皿斗を置き、その上に台輪をまわす	大正14年(1925) 昭和49年移築
植木家住宅主屋	王子中町	個人所有	平22.5.20	木造2階建入母屋造 1階に出格子彫刻入持送り 市内中心部に残る数少ない商家	安政元年(1854)頃
植木家住宅離れ	〃	〃	〃	入母屋造棧瓦葺 床・違棚・書院を構え意匠に凝る	昭和4年(1929)
植木家住宅離れ控えの間	〃	〃	〃	庇の意匠が数寄屋風 渡り廊下が付随する	昭和4年(1929)

② 県指定

ア 有形文化財

柞原八幡宮文書附絵図	八幡	柞原八幡宮	昭35.3.22	絵図のみ	江戸時代
八幡宇佐宮御託宣集附裏書	〃	〃	〃	宇佐神宮に関する記録16巻と裏書2からなる文明2年(1470)	室町時代
詫摩文集書	北	個人所有	〃	合計11巻 286点の文書 嘉応元年(1169)～慶長16年(1611)	平安時代末期～江戸時代初期
都甲文書	生石	個人所有	〃	合計4巻 90通	平安～江戸時代
刀	野津原	個人所有	昭40.3.9	銘 貞行 応永時代	室町時代前半
刀	府内町	個人所有	昭43.3.29	銘 平鎮教 長さ 81.6cm	戦国時代(永禄年間)
木造不動明王坐像	上野丘	金剛宝戒寺	昭44.3.22	檜材 寄木造 像高 86.3cm	平安時代後期
木造不動明王立像	八幡	柞原八幡宮	昭45.3.31	〃 〃 像高 78.8cm	鎌倉時代末期～南北朝時代初期
木造女神形坐像	〃	〃	〃	樟材 一木造 像高 39.5cm	平安時代後期
木造菩薩形坐像	〃	〃	〃	〃 〃 像高 46.6cm	〃
木造祖師形坐像	〃	〃	〃	〃 〃 像高 54.8cm	平安時代末期
板彫多聞天立像	〃	〃	〃	〃 〃 像高 78.4cm	鎌倉時代
板彫不動明王立像	〃	〃	〃	〃 〃 像高 76.9cm	〃
紙本著色由原八幡宮縁起絵巻附極書二通	〃	〃	〃	絵 土佐光茂詞 青蓮院宮尊鎮法親王	室町時代
紺紙金泥増老阿含経	〃	〃	〃	11紙 縦34cm、横64.2cm文和4年(1355)に尼法忍により施入	平安時代末期
山水蒔絵縁起絵巻納箱	〃	〃	〃	銘 元和八年中川秀征(岡藩2代藩主)寄進	江戸時代初期
紙本著色既図六曲屏風一双	上野丘	円寿寺	昭46.3.23	土佐派の画風春隻と秋隻(各)150.0×52.5cm	江戸時代中期
絹本著色柿本人磨呂	〃	〃	〃	土佐信実筆の墨書あり 縦34.5cm 横37.5cm	鎌倉時代後期
刀	横尾	個人所有	昭49.3.19	銘 藤原統行 平成16年6月21日所有者変更による	
太刀	羽屋	個人所有	昭51.3.30	銘 豊後国行平(豊後刀の逸品である)	鎌倉時代
安藤家刀	横尾	個人所有	昭54.5.15	銘 豊州高田住大和太極藤原真行 平成16年6月21日所有者変更による	

文 化 財

名称または物件	所在地	所有者または 管理団体	指定年月日	摘 要	参 考
中間石幢	志津留	共有	昭55.4.8	造立者の墨書銘あり 応永6年(1399)造立	室町時代
万年橋	寒田	西寒多神社	昭55.4.8	文久2年(1862)建造(西寒多神社境内)	江戸時代
金剛宝戒寺木造像	上野丘	金剛宝戒寺	昭57.3.30	檜材 寄木造 像高161.6cm	鎌倉時代
豊後国諸検地帳	駄原	県教委	〃	文禄2年(1593)7冊 他全82冊 平9年大分県立先哲資料館	安土桃山時代～江戸時代初期
太刀	坂ノ市	個人所有	昭63.3.15	「豊州之住人直宗作 応永十八年〇月十五日」銘	室町時代
木造聖徳太子立像	上野丘	金剛宝戒寺	平9.3.25	檜材 寄木造 像高68cm	鎌倉時代後期～南北朝時代
刀	大道町	個人所有	平10.3.20	豊後国高田住藤原實行作	江戸時代
脇差	〃	〃	〃	〃	〃
築山古墳出土品	本神崎	築山古墳保存会	平10.3.20	築山古墳出土品一括	古墳時代
絹本著色阿弥陀如来迎図	森町	専想寺	平11.3.23	1幅	室町時代
木造阿弥陀如来立像	〃	〃	〃	1軀	鎌倉時代
巴形銅器	埋蔵文化財センター	県教委	〃	考古資料	弥生時代
教尊寺(7棟)	〃	教尊寺	平11.3.23	本堂・庫裡付玄関・書院・御殿・経蔵・鐘楼・山門 江戸期の伽藍構成 建物の大方が現存	江戸時代
刀	常行	個人所有	平13.4.3	銘 平長盛(豊後刀の作風強く残す)	室町時代
刀	森町	個人所有	平13.4.3	銘文 平長盛平成19年7月24日 所有者変更で白杵市より	室町時代
木造聖観音菩薩坐像	八幡	大山寺	平14.3.29	樟材 一木造 像高 273.5cm	平安時代
木造十一面観音菩薩立像	永興	臨濟寺	〃	桧材 寄木造 像高 170cm 平成18年5/18所有者変更	〃
早吸日女神社総門	佐賀関	早吸日女神社	平16.3.30	切妻造 本瓦葺	江戸時代
早吸日女神社本殿	〃	〃	〃	三間社流造 檜皮葺	〃
早吸日女神社社家(小野家住社)	〃	〃	〃	入母屋造 棧瓦葺	〃
長湯横穴墓群(7号墓)	埋蔵文化財センター	県教委	平17.3.29	鹿角製刀装具装着鉄刀 他 計28点	古墳時代後期
木造地藏菩薩立像(愛宕地蔵)	青石	妙蔵寺保存会	平17.3.30	像高81.5cm、材質檜、寄木造、彫眼、漆箔が施されている	鎌倉時代
絹本著色涅槃図	上野丘	金剛宝戒寺	平18.3.31	縦212.3cm 横214.5cm	鎌倉時代
木造聖徳太子二歳立像	勢家	法専寺	平18.3.31	・桧材寄木造 玉眼 像高68.2cm	鎌倉時代
銅造如来立像	上野丘	金剛宝戒寺	平19.3.30	総高16.3cm像高15.1cm銅鑄造製 鍍金あり	飛鳥～白鳳
大志生木宝篋印塔	十谷	西岡神社	平21.3.17	應安六年癸丑六年(1373)の銘。「塔供養」と刻まれている。平成21年大分市指定から県指定へ	南北朝時代
王ノ瀬石棺	大分県海部古墳資料館	共有	平24.3.13	家形石棺 辻古墳の主体部が王ノ瀬石棺だった可能性が高い。	古墳時代中期

イ 史 跡

丑殿古墳	賀来	丑殿神社	昭30.5.28	横穴式石室 家形石棺(昭47年保存施設)	古墳時代後期
脇蘭室墓	鶴崎	大分市	昭32.3.26	墓碑 表面に高弟帆足萬里による「文教脇先生墓」の六字	江戸時代
楠木生石造五重塔	下戸次	個人所有	昭34.3.20	銘 延文五年(1360)庚子三月十七日	南北朝時代
府内城跡	大手町荷	大分市	昭38.2.15	石垣、土堀、堀、櫓2、櫓跡1	江戸時代
曲石仏付双塔(五輪塔)・磨崖連碑	揚曲町	共有	昭41.3.23	磨崖仏、石窟内に丸彫りの像や陽刻の像が安置される(昭47年補修)	平安時代末期～室町時代
口戸磨崖仏附磨崖五輪双塔	口戸	個人所有	昭44.3.22	宇佐八幡宮と関連ある磨崖仏	鎌倉時代末期～室町時代
毛利空桑旧宅及び塾跡	鶴崎	大分市	昭45.3.31	空桑私宅「天勝堂」塾「知来館」安政4年(1857)一緒に建設 遺品館に遺品陳列	江戸時代
岩屋寺石仏	古国府	円寿寺	〃	国指定解除物件	鎌倉時代～室町時代
参勤交代道路	今市	大分市	昭47.3.21	幅2.1m 長さ660mの石畳	江戸時代
蓬萊山古墳	庄ノ原	共有	昭56.3.31	前方後円墳 全長60m	古墳時代前期
毛利空桑墓	常行	共有	昭62.6.29	墓碑「日本国儒者毛利到墓」と大書 陰刻 昭36.3.14指定後地番誤記判明昭62.6.29再指定	江戸時代
小牧山古墳群	松岡	大分市	平23.2.29	方墳3 円墳2 前方後円墳1 保存状態良好	古墳時代

ウ 無形民俗文化財(選択)

賀来神社卯酉の神事	賀来	共有	昭33.3.25	記録保存の措置を講ずべきものとして選択「賀来の市」	
鶴崎踊	鶴崎	鶴崎おどり会	昭56.3.31	記録保存の措置を講ずべきものとして選択	

エ 天然記念物

名称または物件	所在地	所有者または 管理団体	指定年月日	摘 要	参 考
高島のピロウ自生地	高 島	大 分 市	昭30.5.27	1 株	
高島のウミネコ営巣地	”	”	”	400羽程度 5月～8月中旬に営巣	

③ 市指定

ア 有形文化財

熊野権現縁起絵巻	津 守	熊野神社	昭49.1.9	松平忠直の遺品 全13巻 (熊野神社)	江戸時代
神 庫	寒 田	西寒多神社	”	校倉造 応永15年(1408) 明治19年改修 (西寒多神社境内)	室町時代
鳥 居	王子町	王子神社	”	寛政8年(1796) 2月建立(王子神社境内)	江戸時代
刀 (大・小)	府内町	個人所有	”	毛利空桑所持刀 刀 長さ 89.5cm 脇差 長さ 59.0cm	刀 室町時代 脇指 江戸時代
刀	歴史資料館	大 分 市	”	表銘 豊府家士神丸盛利行年七十才作 裏銘 天保9年戊戌2月 日任望角幸安殿 天保9年(1838)	江戸時代
円寿寺相伝文書及び大友資料	上野丘	円通寺	昭51.8.24	開基道勇置文以下15件内大友関係資料 1巻12通	鎌倉時代～室町時代
大般若経本附納函	”	”	”	寛正4年(1463) 寄進	室町時代
御城下絵図	歴史資料館	大 分 市	昭56.8.1	府内藩主が府内城下から「浜の市」を見物に行く行列 を中心に絵巻物仕立てで描いたもの	江戸時代
十一面観音立像	国 分	国 分 寺	”	桜材 寄木造 像高 106.2cm 藤原仏の特徴	平安時代後期
万寿寺石造国東塔	金 池	万 寿 寺	昭56.8.1	国東地方に発達した宝塔の一種	鎌倉時代
紙本着色隠元・木庵・即非三 幅対像附絹本淡彩蘆葉蓮磨図	田 室	長 福 寺	昭62.3.20	黄檗宗三禅師肖像画と達磨図 寛文元年(1661) 製作	江戸時代
波奈之丸屏風 (厳島神社図)	歴史資料館	個人所有	平2.7.16	御座船波奈之丸に置かれた屏風	江戸時代前期
熊本藩船鶴崎入港船絵馬	東鶴崎	劔八幡社	平3.3.27	熊本藩の参勤交代船の模様を描いた絵馬 [寛政10年(1798)]	江戸時代
岡藩船三佐入港船絵馬	三 佐	野坂神社	”	岡藩の参勤交代船の模様を描いた絵馬 [文化10年(1813)]	”
府内藩校遊焉館絵図	歴史資料館	弥栄神社	平6.2.28	遊焉館の学習風景を描いた絵図	江戸時代末期
帆足本家酒造蔵	中戸次	大 分 市	平11.3.23	酒造過程のわかる木造建築物	明治～大正
脇 指	府内町	個人所有	平16.3.31	銘文 表 豊州藤原友行 裏 貞治七年三月日(1368)	南北朝時代
刀	森 町	個人所有	平16.3.31	銘文 表 豊後国高田住次右衛門藤原統行 裏 明暦元年九月吉日(1655)	江戸時代初期
刀	永 興	個人所有	平16.3.31	銘文 表 長谷部國重 相伝の名門の一派 「府内國重」とも呼ばれる	室町時代後期
木造宝冠釈迦如来座像	太 田	個人所有	平17.3.31	桧材 寄木造 像高68.5cm	南北朝時代
木造毘沙門天立像	恵 良	西 福 寺	”	桧材 寄木造 像高65cm	江戸時代前半
木造薬師三尊立像	本 町	福 城 寺	”	桧材 一木彫成	室町時代前半
銅造観音菩薩立像	今 市	安 楽 寺	”	銅製の像 像高26.2cm 懸仏	鎌倉時代後半
丸山八幡神社楼門	”	丸山八幡神社	”	享保5年(1720) 入母屋造 3回修理	江戸時代
木造地藏菩薩立像 (愛宕地蔵)	本神崎	八幡神社	”	像高96.8cm、台高36.5cm、材質檜、寄木造、玉眼入り で彩色が施されている	江戸時代初期
大平文書	大 平	個人所有	”	数少ない肥後細川藩領の地方文書 近世文書と近代文書に二大別される	江戸時代～明治時代
若林文書・系図	一尺屋	個人所有	”	大友氏の水軍として活躍した若林家の文書。国立歴史 民俗博物館所蔵若林文書と兄弟文書である。	戦国時代
早吸日女神社石鳥居	佐賀関	早吸日女神社	平17.9.27	寛永17年(1640) 6月の刻銘 熊本藩主細川忠利の寄進	江戸時代初期
早吸日女神社神楽殿	”	”	”	文政10年(1827)以降、元の半分の規模で現在地に移 築大正4年改築切妻造本瓦葺	江戸時代後期
早吸日女神社拝殿	”	”	”	宝暦13年(1763) 6月細川重賢建立 嘉永3年(1850)改修 入母屋造本瓦葺	江戸時代中期
熊本藩船佐賀関入港船絵馬	”	”	”	藩主が参勤交代時に座乗する御座船の図で、描写法や 画材などから江戸末期の作品	江戸時代末期
西 谷 橋	大 平	大 分 市	”	文政7年(1824)甲申3月白杵大野の石工、新左エ門・ 友藏によって構築架橋	江戸時代後期
西福寺宝篋印塔	恵 良	西 福 寺	平17.3.31	宝篋印陀羅尼経を納めた供養塔 総高258.5cm	室町時代
福城寺逆修石幢	本 町	福 城 寺	”	大永6年(1526)の銘	戦国時代
福城寺宝塔	”	”	”	総高244.5cm	南北朝時代後半
山の川石造宝塔・宝篋印塔	入 蔵	個人所有	”	どちらも溶結凝灰岩製	室町時代前半
摺 石 幢	摺	個人所有	”	総高226cm 八角形	戦国時代
原 村 石 幢	原 村	個人所有	”	安山岩製 総高269cm	室町時代後半
地 福 寺 宝 塔	福 宗	地 福 寺	”	2基並立 向かって右184cm、左176cm	室町時代中期
地 福 寺 石 幢	”	”	”	明和8年(1771)の銘 凝灰岩製	江戸時代中期
永富家逆修碑(3基)	新 町	個人所有	”	生前に供養する供養石塔 慶長5年(1600)の銘	安土桃山時代末期

文 化 財

名称または物件	所在地	所有者または団体	指定年月日	摘 要	参 考
宝泉寺大乘妙典一字一石塔	竹 屋	個人所有	〃	総高215cm 享保12年(1727)の銘	江戸時代
霊山寺山門	岡 川	霊山寺	平19.8.12	木造・銅板葺・三間一戸二重門。禅宗様の特徴が表れている。古文書より寛永15年(1638)建築。	江戸時代
常楽寺文書	岡 川	常楽寺	平19.8.12	大友松野家系図・大友歴代の記載が豊富少式頼尚施行状写・毛利輝元書状写・政治状況	中世・近世
光西寺真宗関係資料	末広町	光西寺	平19.8.12	六字名号・親鸞聖人像・方便法身像・親鸞聖人絵伝六字名号は蓮如真筆	室町・江戸時代
水分神社銅鉢	横 尾	水分神社	平20.12.4	完形品と残欠2個 精巧な鑄上がりで埋納されていた北部九州で鑄造	弥生時代中期末～ 弥生時代後期前
伝岩屋遺跡出土銅戈・石戈	歴史資料館	銅戈・大分市教委 石戈・個人所有	〃	銅戈は、細形銅戈で我が国初期鑄造品 石戈は、遠賀川流域で製作された可能性	弥生時代中期
勝光寺華南三貼花文五耳壺	歴史資料館	勝光寺	平21.12.16	深い光沢のある緑色を基調とした優品	安土桃山時代
大分市内出土 青銅破鏡	歴史資料館 埋蔵文化財センター	大分市教委	〃	漢鏡	弥生時代後期～後期末
原田家宝篋印塔	福 宗	個人所有	平22.12.17	総高147cm 安山岩製 四方仏の尊影を浮き彫りにしている。	室町時代
大分市内出土 青銅器	歴史資料館	大分市教委	〃	青銅製ヤリガンナ、小銅鐸	弥生時代中期～後期
〔天長九年尼寺〕 〔尼寺〕墨書土器3点	歴史資料館	大分市教委	平23.12.19	豊後国分寺西側より出土。国分尼寺の位置を推定する資料。	平安時代

イ 史跡

大友頼泰墓	岡 川	常楽寺	昭49.1.9	五輪塔 高さ176cm 大友氏三代 延享元年(1744)以降 H19/6/4所有者修正	墓塔は江戸時代
丹生遺跡	丹 生	大分市	〃	昭和37年～42年にかけて、6次にわたって調査	旧石器時代
滝尾百穴横穴古墳群	羽 田	共 有	〃	横穴古墳群	古墳時代後期
伽藍石仏	永 興	個人所有	〃	仏像の配列に特徴あり	鎌倉時代～室町時代
府内城跡	荷揚町	大分市	平7.2.17	県指定部分を除く城地	江戸時代
佐藤家墓地五輪塔群	前 田	個人所有	平17.3.31	材質すべて角閃石安山岩 完形41基	戦国時代～江戸時代初期
鶴迫磨崖仏	太 田	地福寺	〃	地藏尊「火防(ひぶせ)の地藏さま」と呼ばれる	安土桃山時代末期～ 江戸時代初期
鶴迫磨崖連碑	〃	個人所有	〃	15基の板碑型の碑 永禄2年(1559)の銘	室町時代末期

ウ 無形民俗文化財

柞原太鼓	八 幡	保存会	昭54.6.14	柞原八幡宮の放生会「浜の市」に起源をもつ。	
深山流 伊与床神楽	端 登	神楽社	平12.6.16	市内唯一の深山流の流れをもち、忠実に古様を伝えている。	
岡倉神楽	下 原	保存会	平18.3.7	勇壮な神楽であり、活発に活動している。また、伝承も計画的に行われている。	明治時代～

エ 無形文化財

廻栖野の竹細工技術	廻栖野	保持者3名	平23.12.19	長いヒゴを使用した、青物系の竹細工技術。大分県在来の古い技術。	
-----------	-----	-------	-----------	---------------------------------	--

オ 無形民俗文化財(選択)

羽田神楽	羽 田	大分社	平17.9.27	昭和45年創立と新しいが、庄内神楽の流れをくみ伝承に熱心に取り組んでいる(選択)	昭和45年～
------	-----	-----	----------	--	--------

カ 有形民俗文化財

鯰網大漁光景図絵馬	佐賀関	早吸日女神社	平17.9.27	明治45年に奉納された漁撈絵馬で当時の鯰網漁の様子が詳細に描かれている	明治時代
漁業図大絵馬	〃	〃	〃	明治35年に奉納された漁撈絵馬で珊瑚樹採取の船団を描写している	明治時代
帆足本家酒造用具一式	中戸次	大分市	〃	多くの酒造用具が残され、それらは伝統的な民具で構成されている(342点) h19/2/8大分市へ寄付	江戸時代末期～昭和47年

キ 天然記念物

オオイタサンショウウオおよび生息地	岡 川	霊山寺	昭49.1.9	希少種とされている(霊山寺境内)	
ヤマフジ	寒 田	西寒多神社	〃	枝張り 東西約24m、南北約5mの範囲で広がる(西寒多神社境内)	
クスノキ	下戸次	八幡神社	〃	高さ約20m 樹冠の広がり東西約33m南北45m(八幡社境内)	
柞原八幡宮の森	八 幡	柞原八幡宮	平2.9.12	自然林の残存林 柞原八幡宮境内林	

3 大分市歴史資料館

所在地 大分市大字国分960番地の1
 電話 549-0880
 FAX 549-5766

(1) 運営方針

市内を中心とした考古、歴史、民俗の各分野にわたる資料を公開展示するとともに、企画展示、テーマ展示、各種の講座・講演会などを通して、広く市民が郷土の歴史を学ぶ場をめざしている。また、学校と連携して各教育課程に適応した歴史学習や体験活動のプログラムを充実させ、職員が学校に出向いて体験活動の指導を行う「移動歴史教室」を推進する。

更に、大友氏関係及び同時代の歴史資料の調査研究と収集を進め、郷土資料の保存・公開をはかり、大分の歴史に関する情報を積極的に発信する。

(2) 施設の概要

昭和62年4月 開館
 敷地面積 4380.00㎡ 建築面積 1889.60㎡
 延床面積 2576.92㎡ 展示室面積 690.75㎡

(3) 展 示

原始から近世までの通史的展示と民俗資料の常設展示をしている。各種の模型やイラスト、年表などを多用し、平易で立体的な展示を行っている。また、テーマ展示室を設け、テーマ毎に順次館蔵品等を公開している。

① 1階ホール

豊後国分寺七重塔復元模型（1/10）、市内の石仏案内。

② 常設展示室

第1展示室 大分のあけぼの、大分の君と古墳の時代、国分寺と律令の時代。
 第2展示室 大友宗麟と中世、近世の府内
 民俗展示室 明治から昭和にかけての食卓風景を中心に、その時代に使われた生活道具をオープン展示。

③ テーマ展示室

常設展示以外の館蔵資料を中心に年3回テーマに沿って展示。

④ 子ども歴史学習コーナー及び自分史・家族史コーナー

子どもたちの調べ学習に利用できる歴史・郷土史の本を設置。さらに、自分史・家族史の展示コーナーを設置。

⑤ 豊後国分寺跡の巡見

七重塔跡・金堂跡の礎石や、整備された講堂・食堂・回廊・中門跡をめぐり、奈良時代を体験しながらの散策が楽しめる。

(4) 企画展（平成26年度）

① 第33回特別展

「変幻自在を極める

縄文・弥生のかごと木工芸」

会期 10月24日（金）～11月24日（月）

（開館日数：29日）

内容 縄文時代と弥生時代の籠や木器の発掘品と復元品を中心に集め、国指定史跡横尾貝塚から発見された黒曜石を収容した籠の重要性を広く発信するための展示を行う。



復元された縄文かご（杵築市龍頭遺跡）
うーたの会所蔵

② テーマ展示（平成26年度）

第1回「おおいたに遊ぶ 物見遊山の旅」

会期 4月19日（土）～6月29日（日）

内容 大分にまつわる紀行文・絵図・出版物などを通して、旅人を誘った当地の魅力を紹介する。

第2回「化けた！出た！道具のおぼけ」

会期 7月12日（土）～9月28日（日）

内容 「百鬼夜行絵巻」に描かれる道具を、資料館に収蔵されている資料と照らし合せて展示し、民具資料の重要性やモノに対する私たちの心性を紹介する。

第3回「掘った！出た！市内の遺跡」

会期 1月10日（土）～3月29日（日）

内容 市内の発掘調査の成果から、埋納された銅矛が出土した猪野遺跡や、豪族の居館跡と考えられる古国府遺跡群などを紹介する。

③ まちかど歴史展示館

大分の歴史や地域特有の文化財を紹介するため、市民学芸員や地域住民と協働して移動展示を行う。

今年度は各地域にある支所や中学校を巡回して、大友宗麟公に関連したパネルや資料等を展示する。

④ 大友特集展示

「西洋との出会い 豊後府内と南蛮貿易」

会期 7月26日（土）～8月31日（日）

西洋に輸出された南蛮漆器や輸入された陶磁器などの交易品、交易の様子が描かれた南蛮屏風などの資料を通して、南蛮貿易の様子を紹介する。

歴史資料館

(5) 各種講座（平成26年度）

講座名	期間（開催日時）	定員	内 容	備考	
ふるさとの歴史再発見 ・考古のコース	4月～6月 計6回	原則 第2・第4 土曜日 午後2時 ～3時30分	70名	大分県内の発掘調査にかかわる報告	有料
ふるさとの歴史再発見 ・歴史のコース	7月～9月 計6回		70名	郷土大分の歴史と人物について	有料
ふるさとの歴史再発見 ・民俗・文化史のコース	11月～12月 計4回		70名	大分の民俗と文化史について	有料
ふるさとの歴史再発見 ・古文書のコース	1月～3月 計5回		70名	中・近世文書の解説	有料
ふれあい歴史体験講座 （親子と一般）	原則毎月第1・3土曜日 午前9時30分～ 午後2時～ の2回	各50名 と 70名	管玉丸玉作り／土笛作り／勾玉作り／粘土は にわ作り／和風作り／土偶作り／土の鈴作り ／縄文かご編み／土面作り／折り紙雛作り	有料	
			七夕飾り	無料	
昔のおもちゃで遊ぼう （親子と一般）	5月5日（月）こどもの日 午前9時～午後4時	なし	資料館隣の広い史跡公園で、手作りの おもちゃ（竹馬、コマ、お手玉等）で 遊ぶ	無料	
勾玉作り教室 （親子と一般）	8月2日（土）、8月3日（日） 11月22日（土）、11月23日（日） 午前9時～午後1時～	なし	事前申し込み不要で、好きな時間に勾 玉作りを体験する	有料	
夏休みジュニア歴史探険 （小4～中学生）	7月31日（木） 午前9時30分～午後3時30分	50名	小中学生を対象に、館内をめぐる歴史 探険や学芸員のしごと体験、オリジナ ル勾玉作りなどの活動を実施する	有料	
歴史教育研修 （小中学校教職員対象）	8月7日（木）、19日（火） 午前9時～12時	応募	館内見学／体験活動実践講習 講義（郷土の歴史に関すること）	無料	
展示解説講座	開催期間中頃の日曜日 午後2時～	各70名	展示品を解説し、会場を案内する テーマ展・特別展ごとに各1回開催	無料	

(6) 利用状況

① 利用者数

年度	入館者		講座室等利用者		合計
	大人	小中高生	大人	小中高生	
平成21年度	10,544	12,672	7,912	11,331	42,459
平成22年度	9,440	13,467	8,023	11,527	42,457
平成23年度	7,181	11,437	8,268	14,954	41,840
平成24年度	7,196	14,010	7,138	14,681	43,025
平成25年度	7,346	14,230	8,731	15,351	45,658

② 利用状況（平成25年度）

区分	観覧者		講座室利用者		移動講座	合計
	個人	団体	一般	講座・体験		
大人	4,332	3,014	1,308	5,271	2,152	16,077
中高生	104	837	7	10,893	4,451	29,581
小学生	743	12,546				
合計	5,179	16,397	1,315	16,164	6,603	45,658

③ 各種講座参加者数（平成25年度）

講座名	延回数	参加者数
ふるさとの歴史再発見	歴史のコース	5回 236人
	考古のコース	6回 279人
	民俗・文化史のコース	4回 167人
	古文書のコース	5回 311人
ふれあい歴史体験講座	18回	879人
昔のおもちゃで遊ぼう	1回	277人
勾玉作り教室	4回	796人
ジュニア歴史探険	1回	24人
展示解説講座	4回	128人
合計	48回	3,097人

④ 企画展入館者数（平成25年度）

名 称	期 間	入館者数
第32回特別展 「南蛮屏風の世界 －描かれた都市の賑わい－」	10月25日（金）～11月24日（日） （開館日数 28日間）	7,034人
記念講演 「古地図にみる大分」	11月17日（日）	85人
テーマ展示Ⅰ「古文書にみる大友の家臣たち」	4月20日（土）～6月30日（日） （開館日数 62日間）	3,248人
テーマ展示Ⅱ「江戸の愛好家」	7月13日（土）～10月6日（日） （開館日数 74日間）	4,451人
テーマ展示Ⅲ「大分の土器48選」	12月21日（土）～3月30日（日） （開館日数 78日間）	2,913人
まちかど歴史展示館	7月20日（土）～2月28日（金）の間 市内9か所に設置	19,489人

(7) 調査研究（平成25年度）

- ① 平成25年度特別展調査
平成25年度の特別展「南蛮屏風の世界－描かれた都市の賑わい－」の予備調査を堺市文化財調査事務所、日本二十六聖人記念館、サント・ドミニコ跡教会資料館にて行った。
- ② 平成26年度特別展調査
平成26年度の特別展「変幻自在を極める 縄文・弥生のかごと木工芸」の予備調査を新潟県胎内市教育委員会、鳥取県埋蔵文化財センターなどで行った。
- ③ 市内、県内の考古・歴史・民俗資料調査
資料館に寄せられる情報をもとに、資料の収集と記録保存を目的とした調査を随時行った。

(8) 資料収集（平成25年度）

展示・保存・研究のため、寄贈・寄託・購入等の方法で、資料の収集につとめている。平成25年度の主な収集資料は以下のとおりである。

- ① 購入資料 戦国時代の府内古絵図 1点
職人絵尽し 摸本 1帖
- ② 寄贈資料 くじら尺 1点
絢台 1点
柱時計 1点
イチビ 1点
日の丸寄せ書き 1枚
他、戦争関係資料 38点

(9) 刊行物（平成25年度）

- ① 資料館ニュース NO.103～105号
- ② 特別展図録
- ③ 特別展ポスター・チラシ
- ④ 平成26年度 大分市歴史資料館総合案内

(10) 利用案内

- 開館時間 午前9：00～午後5：00
（入館は午後4：30まで）
- 休 館 日 毎週月曜日（祝日の場合は開館）
ただし、毎月第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館（祝日の場合は開館）
祝日の翌日（土・日曜の場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
- 観 覧 料 大 人 200円（団体150円）
高校生 100円（団体50円）
中学生以下 無料
*団体は20名以上
*特別展開催中は別料金になることがある
- 講 座 室 第1講座室 1時間 160円
第2講座室 1時間 100円
*一室として利用することも可
*冷暖房を使用する場合は4割増しとする
- 交通機関 JR久大本線 豊後国分駅下車 徒歩2分

4 大分市美術館

所在地 大分市大字上野865番地
電話 554-5800
FAX 554-5811



(1) 運営方針

大分市美術館は、緑豊かな上野丘公園内に位置し、「たのしんで・みて・まなぶ美術館」として、だれもが気軽に美術を楽しめる場と機会を提供している。年間を通じて所蔵の美術品が鑑賞できるコレクション展（常設展）やさまざまな分野の優れた美術を紹介する特別展の開催、各種講座・講演会の開催など、子どもから大人までが幅広く楽しめる生涯学習施設としての美術館運営をめざしている。

また、特色ある地域の美術文化情報を広く発信するとともに、開かれた美術館として市民との協働による運営を推進する。

(2) 施設の概要

平成11年2月	開館
敷地面積	129,837㎡（上野丘公園全体）
建築面積	6,570.65㎡
延床面積	9,036.48㎡
展示室面積	2,097.81㎡
構造	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨 鉄筋コンクリート造2階建

(3) 収集方針

- ① 豊後南画をはじめ、大分市にゆかりのある作家の優れた作品
- ② 美術史的展望に立ち、近・現代を中心とした芸術的に価値のある内外の作品
- ③ 将来方向として重視される環太平洋地域の美術についての作品
- ④ 歴史的文化遺産として貴重な美術資料

(4) コレクション展（常設展）（平成26年度）

展示室1～4では、コレクションを中心とした企画により、年間4回（展示室2は6回）の展示を行う。

展示室1 福田平八郎や高山辰雄など、近代・現代の日本画を中心に紹介する。

展示室2 近世の絵画や田能村竹田、帆足杏雨などの豊後南画等を紹介する。

展示室3 佐藤敬や幸寿など、近代・現代の洋画等を紹介する。

展示室4 生野祥雲斎の竹工芸作品を中心に紹介する。

[サマー企画] アート・ワンダーランド2014を開催し、全室共通のテーマのもとに所蔵作品を紹介する。



展示室1

展示室 1	展示室 2	展示室 3	展示室 4
1月8日(水)～4月13日(日) 花鳥画の世界	2月18日(火)～4月13日(日) 近代の南画 －大正・昭和前期を中心に	1月8日(水)～4月13日(日) 人物を描く －片多、権藤、佐藤敬ほか	1月8日(水)～4月13日(日) 竹を編む技術
4月15日(火)～7月13日(日) 夏の情景 －新緑・清流	4月15日(火)～5月25日(日) 江戸の動物画 5月27日(火)～7月13日(日) 田近竹邨	4月15日(火)～7月13日(日) 抽象絵画の画家たち －佐藤敬、宇治山哲平、川端実、菅井汲ほか	4月15日(火)～7月13日(日) 「白竹」の魅力 －それぞれの表現
7月15日(火)～9月23日(火) [サマー企画] アート・ワンダーランド2014 みつけよう きみのしらないころのこと			
10月1日(水)～13日(月) 第50回記念大分県美術展(写真展・書道展)			
10月15日(水)～1月12日(月) 風景の中の人物たち	10月15日(水)～11月24日(月) 詩歌と絵画 11月26日(水)～1月12日(月) 田能村直入	10月15日(水)～1月12日(月) 幸寿 －1970年代を中心に	10月15日(水)～1月12日(月) 生野祥雲斎の花籠・ 秋山庄太郎の花
1月14日(水)～4月12日(日) 紅葉・雪景を描く	1月14日(水)～2月22日(日) 富士山 2月24日(火)～4月12日(日) 梅花をめぐる絵画	1月14日(水)～4月12日(日) 戦後美術の一断面 吉村益信、井上佐之助ほか	1月14日(水)～4月12日(日) 磁器・陶器の美 －河合誓徳を中心に

(5) 特別展(平成26年度)

タイトル 会期	主催	内容
郷土在住作家展Ⅷ 菅 玲子展・宮崎喜恵展 4月25日(金)～6月1日(日)	大分市美術館	「郷土在住作家展」の第8弾。洋画家の菅玲子、日本画家の宮崎喜恵を同時に紹介する。
岩合光昭写真展 ねこ歩き 6月6日(金)～7月13日(日)	大分市美術館	40年間以上ネコを撮影し続けている動物写真家・岩合光昭。岩合が、近年訪れた海外・日本各地で撮影したネコの写真を、最新作を中心に約220点を展示し、写真家とネコたちの出会いの旅を紹介する。
おおいたロボット博2014 ゆめゆめ(夢遊目)ワールドへようこそ 7月18日(金)～8月31日(日)	大分市美術館 テレビ大分 「おおいたロボット博2014」展実行委員会	人間の生活を豊かで便利にしてくれるロボット。初めは空想に近かったものを人は次々と実用化し、ロボットは現代人の生活に必要不可欠なものになりつつある。 本展は、ロボットの発明から現在に至る発達の歩みと最新のテクノロジー、そしてロボットと人間のこれからを、家族で体験しつつ楽しみながら考えていく展覧会である。
まちなかアートフル・ロード プロジェクトイベント 9月5日(金)～9月23日(火・祝)	大分市美術館 大分県立美術館 大分アートフルロード実行委員会	大分県が所蔵する現代美術作品を中心とする「利岡コレクション」と大分市美術館コレクションをコラボレーションさせ、1960年代以降の日本前衛美術の一断面と日常生活での現代美術の楽しみ方を紹介する。
第50回記念 大分県美術展(写真展・書道展) 10月1日(水)～10月13日(月)	大分市美術館 大分県美術協会 大分県美術展実行委員会	大分県美術協会等と実行委員会を組織し、大分県美術協会創立50周年記念事業として実施する展覧会。日洋彫工展、書道展、写真展の3部門展を、当館と県立芸術会館で同時開催する。当館では写真展(企画展示室)と書道展(常設展示室)を開催する。
有元利夫展 天空の音楽 10月24日(金)～12月7日(日)	大分市美術館 大分合同新聞社 有元利夫展実行委員会	有元利夫は、岡山県に生まれ、苦勞して東京藝術大学で学んだ後渡欧し、フレスコ画に出会い、風化したような独特の絵肌を持つ絵画を描いて、多くのファンを魅了し、38歳で夭折した。その創造世界を紹介する展覧会。
第63回高文連 美術・書道・写真 中央展 12月11日(木)～21日(日)	大分市美術館 大分県高等学校文化連盟	大分県内高等学校(公立・私立)で学ぶ生徒たちが制作した作品(美術・書道・写真)を紹介する展覧会。
赤瀬川原平展 1月7日(水)～2月22日(日)	大分市美術館 読売新聞社 美術館連絡協議会	赤瀬川原平(1937～)は、1960年代の前衛芸術を代表する「ネオ・ダダ」、「ハイレッド・センター」の中心メンバーとして活躍。さらに、1970年代には、漫画、1980年代には、「路上観察」を展開し、1981年には、芥川賞、1989年には、日本アカデミー賞脚本賞を受賞するなど小説家、脚本家としても脚光を浴びました。こうした赤瀬川の60年にわたる多様な芸術活動の全貌を紹介する。
第49回大分市美術展 3月6日(金)～3月29日(日)	大分市 大分市教育委員会 大分市美術展運営委員会	日本画、洋画・版画、彫刻、工芸、デザイン、書、写真の7部門の作品を公募して紹介する展覧会。

大分市美術館

(6) 各種講座・講演会（平成26年度）

特別展関連講座

講座名	期日・期間	定員	内容
展示解説	展覧会会期中毎週水曜日	各20名程度	美術館職員等による展示解説
菅 玲子展作家トーク	5月10日（土）	80名	特別展関連講演会
宮崎喜恵展作家トーク	5月24日（土）	80名	特別展関連講演会
岩合光昭トーク&サイン会	7月6日（日）午前・午後	各100名	特別展関連講演会&サイン会
有元利夫展講演会	未定	80名	特別展関連講演会
赤瀬川原平展講演会	未定	80名	特別展関連講演会

芸術・文化講座

講座名	期日・期間	定員	内容
「ワタシがつくる、竹のネックレス」	6月7日（土）	20名	竹工芸講座及び竹ネックレスづくり
「実もので飾るフレッシュもみのリース」	11月29日（土）	20名	自然の素材を使ってリースを作る講座
ミュージアムコンサート	10月24日（金）	80名	特別展の会場でナイトミュージアムコンサートを行う
アートカレッジ	5月15日(木)、6月12日(木)、 9月4日(木)、11月20日(木)、 12月4日(木)	40名×5回	美術館コレクション展を楽しみながら、 美術に関する講義と展覧会解説を受ける

子ども講座

講座名	期日・期間	定員	内容
ゴールデンウィーク子ども講座	4月29日(火)、5月3日(土)	40名×2回	「消しゴムハンコのでぬぐい」
夏の美術教室	6月14日(土)、15日(日)	40名×2回	「ハッピーアンブレラ」
美術教室	7月8日(火)	市内小中 学校対象	美術館における鑑賞教室
夏の子ども講座	7月12日(土)、7月13日(日)	40名×2回	「風をつくろうーうちわづくり」
	7月19日(土)、7月20日(日)	40名×2回	「風の声をきくウインド・ベル」
	7月24日(木)、7月25日(金)	40名×2回	「風を見つけようーうきうきモビール」
	7月31日(木)、8月1日(金)	40名×2回	「はりこの犬」
	8月7日(木)、8月8日(金)	40名×2回	「マイ・ロボット」
	9月6日(土)、9月7日(日)	40名×2回	「大切な人へ贈るカードをつくろう」
秋の美術教室	11月22日(土)、23日(日)	40名×2回	絵画「じぶん画」
冬の美術教室	12月20日(土)	40名×1回	ランプづくり
美術館出前教室	10月9日(木)~12月11日(木)	市内小中 学校対象	学校における絵画の鑑賞教室 学校に講師を派遣する実技教室

市民との協働講座等

講座名	期日・期間	定員	内容
美術館ボランティア研修講座	年6回	20名×6回	美術館で活動するボランティアの研修
美術館ボランティア養成講座	年6回	40名×6回	新人ボランティアを養成する講座
美術館で音楽会	9月6日(土)、9月13日(土)、 9月20日(土)、11月1日(土)、 11月15日(土)	80名×10回	応募による市民の演奏
「ギャラリートーク」	毎週土曜日	—	ボランティアによるコレクション(常設) 展案内
「第1月曜日は美術館で楽しもう!」	4月~2月の第1月曜日	—	ボランティアによるワークショップ
「美術館で工作」	9月5日(金)、10月3日(金)、 11月7日(金)、12月5日(金)、 1月9日(金)、2月6日(金)、 3月6日(金)	—	ボランティアによるワークショップ

(7) 美術館ボランティア

概 略

美術館ボランティアは、大分市美術館の教育普及活動の諸事業に係わりながら個々の芸術・美術に関する教養を高めると共に、市民文化の発展に寄与することを目的とする。

① 活動

美術関係資料の収集整理、所蔵作品の解説、ワークショップの実施、その他展覧会諸事業への協力など。



所蔵作品の解説をするボランティア

② 研修

大分市美術館美術振興課職員による所蔵作品関連の研修、講師招聘による美術史の研修など。

(8) 調査研究

① 美術作品等の調査研究

大分ゆかりの作家、日本及び諸外国の近現代芸術、歴史的文化遺産など大分市美術館の収集方針に沿った美術作品及び関連する美術作品、資料等の調査、研究を行う。

② 展示、保存に関する調査研究

特別展、常設展でより効果的に展示する技術、方法や所蔵作品のより安全な保管技術、方法について調査、研究を行う。

③ 教育普及活動に関する調査研究

(9) 利用状況（平成25年度）

1. 観覧者

① 観覧者

区 分	常設展	特別展	計
一 般	人 49,015	人 103,960	人 152,975
高・大生	3,636	6,981	10,617
小・中生	30,915	30,997	61,912
計	83,566	141,938	225,504

② 特別展観覧者

展覧会名	期 間	観覧者
佐藤敬展 戦時下における苦悩と創造	平成25年4月10日 ～5月6日	人 2,775
郷土在住作家展Ⅶ 詫間夢鳳展	5月10日 ～6月2日	2,417
郷土在住作家展Ⅶ 渡辺恭英展	6月7日 ～6月30日	2,840
草間彌生 永遠の永遠の永遠	7月12日 ～10月20日	104,816
シャガール展	10月29日 ～12月8日	16,560
第62回高文連 美術・書道・写真中央展	12月12日 ～12月23日	1,397
大分・武漢合同美術展	平成26年1月10日 ～2月16日	6,018
第48回 大分市美術展	2月28日 ～3月23日	5,115
計	264日	141,938

2. 研修室

利用件数	利用者数
154 件	9,607 人

(10) 利用案内

開館時間 午前10:00～午後6:00（入館は午後5:30まで）

休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）
 ※第1月曜日は開館し、翌日の火曜日が休館（ただし、特別展会期中の火曜日は開館します。）

年末年始（12月28日～1月4日）

臨時（9月24日～9月30日）

観覧料 コレクション展（常設展）
 一 般 300円（団体250円）
 高・大学生 200円（団体150円）
 小・中学生 無料
 障がい者（身体障害者手帳等提示）全額減免

※団体は20名以上

特別展

その都度決定（コレクション展（常設展）と共通）

研修室 使用料 1時間 1,080円
 ※冷暖房使用料は4割に相当する額を加算

チャイルドハウス 使用料 1時間 210円
 ※冷暖房使用料は4割に相当する額を加算

■交通機関

バス 大分バス「JR大分駅上野の森口」乗り場から「大分市美術館」行き約7分
 タクシー JR大分駅上野の森口（南口）から約5分
 車 大分自動車道／大分ICから約10分



安藤 泉「遊星散歩」

5 アートプラザ

所在地 大分市荷揚町3番31号
 電話 538-5000 FAX 538-5060



(1) 運営方針

ゆとりと豊かさあふれる生涯学習社会をめざし、新しい文化の創造と発信が積極的に行われる場として、気軽に利用できるよう市民サービスにつとめる。

また、大分市出身の世界的建築家磯崎新氏建築作品の模型や資料の展示を行い、建築理念や思想などを広く紹介する。

(2) 施設の概要

① 沿革

昭和41年（1966）5月 大分県立大分図書館（磯崎新氏設計）として竣工
 昭和43年（1968）4月 建築年鑑賞受賞
 平成6年（1994）8月 大分県立大分図書館新築移転のため閉館
 平成10年（1998）2月 アートプラザ開館
 平成19年（2007）4月 指定管理者制度を導入

② 概要

敷地面積 3,686.7㎡
 建築面積 1,599.94㎡
 延床面積 4,081.55㎡
 構造 鉄筋コンクリート造
 地下1階地上3階

(3) 指定管理者制度の導入

① 目的

民間事業者の有するノウハウを活用し、市民サービスの向上と行政コストの縮減、及び新たな雇用の創出による地域の振興を図る。

② 指定管理者

アートプラザ共同事業体

③ 指定期間

平成25年4月1日～平成28年3月31日

(4) 事業内容

本館の業務は、貸館業務と常設展示業務に分けられる。

① 貸館業務（指定管理者が行う業務）

ア 施設の用途

(ア) アートホール（2F）

文化・芸術関係団体の展覧会場として、また、各種文化講演会や催事の会場として利用できる。

(イ) ギャラリーA・B（1F）

主として個人やグループによる絵画・書・写真などの創作活動の発表の場として利用できる。

(ウ) 研修室（2F）

芸術・文化に関する会議や研修会や講座などに利用できる。

(エ) 実技室（2F）

比較的大きなプレス機を設置して各種版画ができるように準備している。その他多様な芸術活動にも対応できる。

イ 施設紹介

	面積	展示壁面	天井高	収容人員
アートホール	427㎡	116m	5.14m	250人
ギャラリーA	236㎡	78m	2.85m	
ギャラリーB	102㎡	46m	2.85m	
研修室	79㎡		4.66m	70人
実技室	77㎡		4.66m	20人

- ・ギャラリーA・Bを同時使用することもできる。
- ・実技室には1.8m×0.9mの作業台が6台あり、水道も設置している。

② 常設展示業務（大分市美術館が行う業務）

ア 磯崎新建築模型展示業務（3F及び2F 60'sホール）

磯崎新氏が設計した建築物の精密な模型や資



60'sホール

料などを、随時展示替えを行いながら常設展示する。

展示室は、面積12㎡から111㎡の9つの部屋に分かれており、主要建築模型は60'sホールの一部も使用し展示している。

イ 現代美術作品常設展示業務(2F 60'sホール)
1960年代前半に活動した前衛芸術家グループ「ネオ・ダダ」を中心とする現代美術の所蔵作品を、随時展示替えを行いながら常設展示する。

(5) 利用案内

① 開館時間

午前9：00～午後10：00まで（ただし3階磯崎新建築展示室は午後6：00まで）

② 開館日

年末年始（12月28日～1月3日）を除く全日

③ 使用料

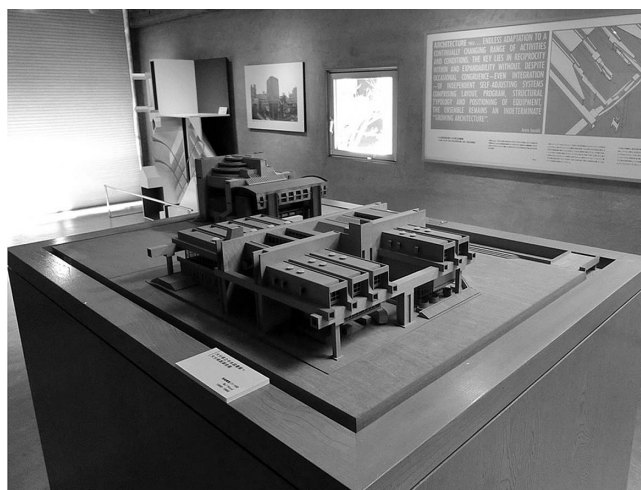
	4月・5月・10月・11月料金	冷暖房 期間中料金
アートホール(427㎡)	1日(9時～22時)9,770円	13,670円
	1時間 1,180円	1,650円
研修室 (79㎡)	1時間 710円	990円
実技室 (77㎡)	1時間 210円	290円
市民ギャラリー (338㎡)	1日(9時～22時)7,710円	10,790円
	A室(236㎡) 1日(9時～22時)5,400円	7,560円
	B室(102㎡) 1日(9時～22時)2,310円	3,230円
磯崎 新 建築展示室	観 覧 無 料	

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----

■の部分 は 冷暖房期間です。

④ 受付方法

- ・使用日の属する月6ヶ月前から、受付を行う。
- ただし、芸術・文化活動以外の会議や研修などは3ヶ月前から受付を行う。



展示室2

アートプラザ

また、5日以上連続して行う展覧会については、12ヶ月前から受付を行う。

- ・受付、空き情報の問い合わせは、年末年始の休館日を除く日の午前9時から午後6時まで。
- ・電話等による仮押さえは不可。
- ・使用料は、予約受付の際に納入。

(6) 利用状況

(平成25年度)

項目	市民ギャラリーA	市民ギャラリーB	アートホール	実技室	研修室
利用日数	299	310	284	330	327
利用率(%)	84	87	79	92	91